

## 身近に絵画のあるまちづくり - 例えば福岡市では -

### はじめに

老人が散歩に出かけたり、若者がデートに出かけたり、家族で旅行したりして、ゆっくりと心と体をリフレッシュできる場所といえば、公園や寺院、浜辺、山などが挙げられる。例えば福岡市では、百地浜公園や海ノ中道海浜公園、油山公園、天神中央公園などがある。どの場所も広々とした空間であり、人の気持ちを手をリラックスさせてくれ、一人でもいいし、家族や友達、恋人たちと共有できる貴重な時間を提供してくれる。特に、ぼかぼかした陽気の中ではのんびりと寛いでしまう。このような場所で写真を撮ればかたちある思い出を残し、今ではカメラ付き携帯電話が手軽によく使われている。時間があれば、風景画や人物画を描いてみても面白いのではないかと思う。なぜなら、自分の手で創作するという事は本来楽しいことであって、そこには個性があるからである。自分の絵を鑑賞したり、お互いの絵を鑑賞し合ったりすれば、充実感や喜び、会話が生まれる。そこで、どのようにしたら多くの人が公園などの空間で絵を自由に描いて楽しめる環境を整えることができるようになるかということを考えてみる。

### 方法

百地浜公園や海ノ中道海浜公園などでは、小さな小屋を建てて、そこでクレパスや色鉛筆、画用紙、画板などをレンタルできるようにする。本格的にやりたい人には、油絵の道具一式をレンタルできる。レンタル料金はできる限り安い方がよく、多くの人に体験してもらおう。天神中央公園など小さな小屋を建てるのが大変ならば、屋台や露店のようなものにしてもよい。額縁も置いてあって、描いた絵を誕生日のような何かの記念日のプレゼントにしてもよく、心のこもった最高のプレゼントになるかもしれない。子供が描いたえならその子の成長のアルバムとなるし、その絵を部屋に飾ってみても面白い。寒い冬の日にはカイロやホットミルク、暑い夏の日には貸し帽子やカチ割氷のサービスをしたりする。更に、テーブルを置いたりしたら、見知らぬ人と世代を越えたコミュニティが生まれるかもしれない。それには多くの人に野外で絵を描くことは楽しいことだと知ってもらわなければならない。ふくおかや九州ウォーカーなどのタウン誌に掲載させてもらったり、アサデスやめんたいワイドなどのテレビのローカル番組に取り上げてもらったりする。クレパスなどのレンタルしている人は絵の好きな人が望ましく、いろいろな人の絵のその人の味のあるところを褒めてあげる。褒められた人は嬉しいので他の人にこのことを話したくなり、そ

こには会話が生まれるし、他の人も絵を描きに行ってみようという気になってくれるかもしれない。更に、絵を描いた人以外の人にも絵画を楽しんでもらうため、季節毎か月毎に、イムズやソラリアプラザ、西鉄の駅などのスペースを借りて、希望者の作品の展覧会を催してもよい。インターネットのホームページ上で公開してもよい。お絵かき大会なるイベントを催して、偶然通りがかった人にも立ち寄ってもらって、その雰囲気を楽しんでもらう。クレパスなどのレンタルという経営でも多くの人に楽しんでもらえるようになれば大丈夫であって、その他の収入源も生まれる可能性もある。アーティストを夢んでいる人にアルバイトとして働いてもらってもいいし、福岡市役所の援助を受けてもいいし、できる限り多くの人を借りるのがよく、みんなのそして僕の私の空間という実感を持ってもらい、地域社会に密着したものになる方向に舵取りをする。

## おわりに

身近に絵画のあるまちづくりについて提案した。当然、絵を描くのは苦手な人で描く気にはなれないという人はいるが、個人の隠れた創造性がオンになり、好きなように自由に描くことに楽しみを見出せる価値観が認められる環境づくりを夢んでいる。このことを基礎としたまちづくりこそ、人間らしく生活するという意味で大変貴重な要素であるし、これからの世の中で求められる要素であると思う。